



発行：日本生理人類学会
生理人類士認定委員会

編集：立川公子（武蔵野大学）

生理人類士 認定制度の御案内

日本生理人類学会は、人類の本質に基づく、健康で快適な環境の構築、評価、問題解決に携わり得る人材育成のため、西暦2000年に生理人類士認定制度を創設しました。これまで多くの方々が生理人類士資格を取得し各分野で活躍されています。当委員会は、これまでの取り組みを踏まえ、資格内容の一層の充実を目指しています。

本制度の資格には下記3種があります。

- (1) アメニティプランナー
(生理人類士1級)
- (2) アメニティコーディネーター
(生理人類士準1級)
- (3) アメニティスペシャリスト
(生理人類士2級)

(1) および (2) は日本生理人類学会員の内、前者は企業や大学等において豊富な実績のある方々を、後者は現在御活躍中の方々を対象としています。また (3) は本学会への所属は問わず、大学、短期大学等の学生あるいは社会人など、広く対象としています。

巻頭言

岡田 明（大阪市立大学）

ストレスと快適性

「最近ストレスのせいで体調が優れなくてね」、「あの先生の顔を見るだけでストレスなんだよ」・・・よく耳にしそうな日常会話である。ストレスはこの様に悪者扱いされ、快適であることの対極に置かれる。本当にそうだろうか。

ストレスとは、外界の様々な刺激や圧力（ストレッサ）に屈せぬよう心身の抵抗力を高めた状態である。我々にふりかかるストレッサが強くなれば、それに対抗してストレスは高まり不快な感覚も増していく。さらにその状態が長く続けば心身は次第に疲弊し、様々な疾患につながる。しかし、悪いのはそうした過度なストレスであり、ほどほどのストレスはむしろ心身にとって有益となる。寒い環境に長く住み続けることで寒さに強くなり、常に緊張を強いられる仕事でも継続により疲れにくくなるのはその例である。適度なストレスに、やがて心身が適応していく。このように、我々は子どもの頃から親や教師に適度なストレスを与えられ続けてきた結果、丈夫な心と体を得ることができたのである。逆にストレスがなくなれば、心身の抵抗力を高める必要性もなくなり、それらは低下する。これも適応である。

こうした視点でこれまでの環境づくりを概観してみると、その場が快適であれば良いとする刹那主義的快適性を追求してきたといえないだろうか。この場合の快適とは抵抗力の減弱にもつながるストレスのない状態である。快適性を保ちつつ健康を維持するためには、こうしたストレスも絡めた生活全体、そして何年にも渡る長いスパンでの快適性を考えてみる必要がある。今それが出来るのは、生理人類学を学び、真のアメニティを目指す生理人類士かもしれない。

生理人類士資格認定者数

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	合計
1級	6	3	3	0	2	0	0	4	3	6	5	1	3	0	36
準1級	5	5	16	5	12	14	12	12	9	5	5	8	14	15	137
2級	24	86	134	95	113	110	91	57	78	63	82	104	84	110	1231

指定校認定申請要領

生理人類士指定校に認定されると、受験者には特典が与えられません。(指定校の認定を受けるには、カリキュラムにおいて、受験資格要件を満たす科目が開講されている必要があります。)

認定を申請される場合、下記①～③を封筒に入れ、「指定校認定申請書在中」と朱書し、事務局へ郵送して下さい。当委員会では速やかに審査を行い、結果についてお知らせします。なお、デジタル化した文書の送信による申請も可とします。手続その他において不明な点があれば、事務局に照会して下さい。

①指定校認定申請書(様式 B-1※)

代表者の署名と押印を必要とします。代表者には各教育機関の事情に応じて適切な人物を充てて下さい。なお、指定校責任者は代表者となることができます。指定校責任者の役割は、受験者の統括、試験問題の管理、試験の実施、試験監督等です(認定制度規程※参照)。

②資格要件に関わる開講科目一覧表(様式 B-2※)

生理人類士準1級および2級における受験資格要件に該当する、開講されている科目のリストを作成してください。単位数は各教育機関の学則に準じるものとします。不明な場合、事務局に照会して下さい。なお、一人の指定校責任者の下、複数の学科あるいは専攻をまとめて申請することができます。その場合、学科あるいは専攻ごとに書類(様式 B-2※)を作成して下さい。

③返信用切手(120円)

※学会ホームページにてダウンロード出来ます。



指定校責任者挨拶

平林由果(金城学院大学)

強く、やさしく!

金城学院大学では、「強く、やさしく!」をスローガンとして教育をしています。生活環境学部・環境デザイン学科では、「人と環境へのやさしさ」に主眼を置きながら、衣服、インテリア、住宅・建築の3分野において、快適環境を考え提案できる人材育成を目指しています。学科の定員は80名で、学生は3つのコースに所属して学習しています。毎日使用する衣服や住居は、できるだけ多くの人を使いやすいように設計、企画されなければなりません。本学科では、このような個の多様性を認めた物の見方、ユニバーサルデザインの考え方を学び、デザインの基礎知識と技術を学べるように、ユニバーサルデザインに関する講義、実習科目を設置して、ユニバーサルデザイン教育にも力を入れています。生活系の学科でユニバーサルデザインについて学べる大学は全国でも珍しいと思います。

アメニティスペシャリスト(生理人類士2級)は、人間と環境の快適性をデザインし、評価できる人材の育成を目指す資格であり、本学科の教育方針と一致しています。学生に対しては、あらゆる人が暮らしやすい生活環境の提案・アドバイスする仕事に直接活かすことができる資格として取得を推奨しています。本学では、2006年に生理人類士指定校の認定を受け、2007年より資格試験を実施しています。毎年継続して生理人類士2級の資格者を輩出しています。さらに上位の資格であるアメニティプランナー(生理人類士準1級)を取得する学生も増えていきます。在学中に取得でき、履歴書に記載できることも魅力の一つです。受験者は年により変動はありますが、今後も取得を目指す学生が増えることを願っています。

2013年度 表彰者氏名

《準1級》

佐橋那央子(金城学院大学)、清水ありさ(福岡女学院大学)、清水莉恵(群馬大学)、森谷由祐子(武蔵野大学) 以上4名

《2級》

臼田聡美・中島愛理香(実践女子大学)、大西麗花・堂山唯奈(福岡女学院大学)、中野那智(東北文化学園大学)、堀口静香(群馬大学)、森俊太郎・山下真理・田中茜(武蔵野大学) 以上9名

生理人類士の声

生理人類士準1級

佐橋那央子（金城学院大学生活環境学部）

生理人類学の奥深さ

私がこの資格を取得したいと思ったのは、「あらゆる人が暮らしやすい生活環境の提案・アドバイスができる資格」で、社会で役立つ資格であると考えたからです。2級に合格し、この分野にますます興味関心を持ち、もっと勉強して役立つ知識を付けたいと思うようになり、準1級に挑戦しました。試験勉強を開始して、2級より、より専門的で深い内容で難しいと感じましたが、どの分野も知識を得るほど、もっと知りたいと意欲が増し、生理人類学の奥深さや面白さを感じることができました。準1級合格で満足せず、これからも『生理人類学』『アメニティ』の知識を深め、この資格を活かして、少しでも人々の暮らしの改善や快適の追及に役立っていきたいと考えています。

崎谷香菜美（群馬大学大学院）
資格取得を通して

学部で教育学を専攻していた私は、大学院進学をきっかけに、家政学の領域で修論を発展させることになりました。新たに家庭科の教員免許状を取得せねばならず、家政学の専門教科を履修しはじめました。すると生物や化学といった、私が苦手とする理系分野が半分もあ

ったので、将来、家庭科の教員になれるか不安に思いました。そんな折、生理人類学の資格試験への挑戦をすすめられ、内心、絶対無理だと思っていましたが、特訓講座に参加し、人体の生理学や衣食住との関係を学ぶうち、家政学との接点が多いことや学校教育の現場でも役立つ、おもしろそうな学問であることを知りました。

資格取得をきっかけに、子どもの成長について、より理解を深め、教壇に立てる日が来るよう、邁進していきたいとします。

森谷由祐子（武蔵野大学通信教育部）

心や体の変調があると、よく「ストレス」という言葉が出されますが、そのストレスについて生理心理学と人間工学の観点から学んだことが、生理人類士の受験へと繋がりました。科学技術進歩の加速度が増す現代において、一見生活の質は向上しているように見えますが、様々なストレス現象は、個々の人間だけでなく、社会全体にも表れているように思います。

2級、準1級と2年続けたの試験勉強の中で、環境とストレスとの相関関係を具体的な数値を挙げ解説する生理人類学の研究には目を見張りました。これらの知見を丁寧に生かすことができれば、現代のストレス現象を低減させることができるのではないのでしょうか。具体的な生活環境の改善を提案できるよう今後も学んでいき

たいと思います。

清水ありさ（福岡女学院大学人間関係学部）

生理人類士準1級を取得して

私が生理人類学という学問、そして生理人類士という資格が存在するところを知ったのは大学に入学してからです。生理人類学は、さまざまな学問の中でも人間の生活にとっても密接に関わっている学問だということを知りました。人間の元々の特性と私たちの生活している環境のもつ特性の双方を考慮し、これらの適合から快適な生活を追求するというところに興味を持ち、今回準1級を取得しました。

人間は常に快適さを求め、現在も様々な技術や製品が開発されています。一見とても快適な世の中になっているように見えても、目先の快適さだけを追求し、人間の本来の特性と適合しきれていないということも多く発生しているのではと思います。このような問題も視野にいれ、これからも生理人類学を学んでいきたいとします。

生理人類士2級

山下真理（武蔵野大学通信教育部）

生理人類士活躍への期待

最近では、日本の景気が回復している兆しを感じさせる報道を度々目にします。景気回復は新しい技術の開発を促し、新たな文明文化獲得の可能性など、我々の生活環境を大きく変化させるきっかけとなりえる

かもしれません。過去には新技術が公害などの環境破壊の一因となった時代もありましたが、その経験を踏まえ、今後、環境が変化する時には、生活環境が改善に向かうような努力をする必要があると考えています。

生活環境の変化が予想されるような状況の中で、生理人類士は生理人類学の学術的知見を踏まえた活動によって、人間の生理的特性に適した、より安全で快適な環境を提供するために活躍できるのではないかと期待し、また、自分がその一端を担えればと考えています。

田中茜（武蔵野大学人間科学部）

今回は、このような賞をいただきありがとうございます。大変嬉しく思っております。

私は、生理人類学という学問には大学に入学してから出会いました。この学問は、今を生きる、私たち自身についての人間生活の質の向上に直接かわる科学です。知識を習得するにつれ、驚くべき高度な人間の身体のメカニズムを知りました。意識して生活してみると、私たちの身体はこんなにも生命維持のために活動がなされていることに気がつき、感心します。

この学問を習得するにあたり、今後の人類の生活の質の向上のため、人間の特性を正確に理解し、より良い科学技術の発展に貢献していくことができたら幸いです。

《準1級》

後藤南椰・清水ありさ・新内彩日・高尾彩良・田中丸ひらり・吉田彩・山田友子・渡邊沙貴（福岡女学院大学）、鈴木恵子・森谷由祐子・種田美嘉（武蔵野大学）、林周作（日本ベッド製造株式会社）、佐橋那央子（金城学院大学）、崎谷香菜美・清水莉恵（群馬大学）、以上 15 名

《2級》

野崎正美・山下真理・村田みお子・中西尚美・竹岸博之・石橋ひとみ・鈴木瑞絵・山田小波・竹内ゆかり・尾上満理・胡文笏・岡本梨沙・高山薫・澤田浩充・山本海・田中茜・相原隆宏・岡田裕哉・森俊太郎・矢崎賢吾・野田奈々・三宅亜紀・村上杏果・菊川彩郁・大島舞子・新藤未来・玉置優・山井麻衣子・田村薫・北川千晶・柏木将・今田和貴・本田裕樹・東海林耕一・大澤真生・高柳京征・出雲健一郎・長田久美子・田崎朱音・花城麻彩・加藤聡海・高橋恭祐・吉房優弥・剣持良太・竹井拓也・山本安梨沙・谷口晴香（武蔵野大学）、赤見未弥・猪狩円香・臼田聡美・内田桃子・南園舞・岡部純佳・加古愛莉・西山美香・木下友里・河野里紗・小林歩・酒井絵里佳・佐久間尚美・鈴木好美・高萩郁重・田中佑佳・中島愛理香・中村里菜・野村夕佳・広沢夏実・保坂真奈美・宮田采奈・村野文香（実践女子大学）、菅原優子・大西麗花・小野未来・楫真琴・河口歩美・川原由莉・黒木志保・徳井怜莉・小松矩子・権藤菜美・佐藤舞美・奈良崎光都姫・白水優香・松本愛理・玉岡菜緒・堂山唯奈・古賀美幸子・西田彩香・羽坂千尋・前田彩華・金武愛佑美・牧口千穂・山下真由子・山下桃・吉居優希（福岡女学院大学）、万城目裕樹・阿部和正・伊藤みゆき・遠藤正平・小野亜衣・郷家修季・齋藤由依・中野那智・庄司大輔・伊藤宏樹（東北文化学園大学）、小林桃子・星野いづみ・堀口静香・熊田汐李・山田絵美香（群馬大学）以上 110 名

中野那智（東北文化学園大学科学技術学部）

将来の自分の為に

大学2年生になり、今年は何か資格を取得したいという意気込みを持っていました。

本学科では様々な資格取得プログラムを開設しており、その中のひとつに「アメニティ資格取得プログラム」があります。学科の先生の薦めもありこのプログラムの受講を決めました。実際にプログラムを受けてみると、興味深い内容がたくさんありました。先生の教える内容も的確で、人体の構造や環境などは、日常生活に密接に関わってくるとても重要な事であり、快適な住環境の創造に不可欠であると理解しました。私は将来、インテリア関連の仕事に就きたいと考えています。この資格を取得するに当たって得た様々な経験や知識を、今後の学修や就職に活かして行きたいと思います。

加古愛莉（実践女子大学生活科学部）

快適性について考える

私は大学に入る前から「住」に関して興味があった。そして大学で生理人類学の講義を受け、生活環境の中で本当に人間に優しく、暮らしやすい環境とはどのようなものなのか追究している面白い学問であるこ

とを知った。

私の家ではより快適に過ごすために度々模様替えをする。リビングには以前はソファが置いてあった。次は厚い絨毯とクッションとなり、現在は畳が敷いてある。そこで、私はいつも横になってテレビを眺めている。実に快適であるが、これでよいのかと時々思う。

人類にとって本当によい環境とはどのようなものだろう。快適すぎても良くないと常々感じている。もっと深く生理人類学を学ぶことにより、正解が得られるだろうと思う。

熊田汐李（群馬大学教育学部）
生理人類士試験を通して

教育学部の学生の多くは、将来教員をめざして、教育学と専攻毎の専門教科を履修します。そして、3年次の9～11月の8週間にわたって、カリキュラム最大の目玉である教育実習が小・中学校で展開されます。実習がスタートしてしまうと、授業準備の余裕はなく、毎日睡眠不足との戦いです。

そこで、8月の夏休みに大学で資料を集めるのですが、そんな時、生理人類士のポスターが目にとまりました。実習と並行して勉強することは大変でしたが、自分の体や身近な環境のことなど、普段漠然と生活しているのは気づくことができない

事象について理解し、再認識することができました。また、知識の定着と視野の広がりを感じることができ、今後、教育の一手段として活かしていけたらと思います。

大西麗花（福岡女学院人間関係学部）

生理人類学とは

今回、生理人類学の授業を受けていたこともあり、アメニティの資格試験を受けました。その中で授業を受けていても試験を受けるときも思ったこととして、生理人類学という分野は人間の体の構造、仕組みだけでなく私達を取り巻く環境について理解をすることが出来る学問だと感じました。例えばシックハウス症候群のように自分たちの生活に密接している内容だったので興味もあり、今までの経験を含めて「なるほど。そう言うことだったのか。」と感じることの出来る学問だと思います。

今回の試験で生理人類士二級を取得出来たこともあり、さらに生理人類学の理解を深めたいと思いました。次の目標としては生理人類士準一級取得を目指して頑張りたいと思います。また、それと同時に生理人類学で学んだことを日常生活に活かして行こうと思いました。

2014 年度資格認定試験	
《 申込期間 》	日本生理人類学会資格事務局
2014年9月20日(土)～10月10日(金)	〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5
《 試験日 》	アカデミーセンター
準1級・2級：2014年11月29日(土)	T E L : 03-5389-6218
1級：2014年11月30日(日)	e-mail : jspsa-post@bunken.co.jp